

運賃と割引制度の検討経過と これまでの決定事項

1. 検討方針

- これまでCoCoバスは100円の運賃で運行を行っていましたが、路線バスとの運賃格差とそれに伴う路線バスの利用者減少の助長、地域間での不平等が課題となっていました。
- そのため、利用者、市、運行事業者の3者が、それぞれ過度な負担なく公共交通を支えることを目標として、交通弱者への配慮や路線バスとの競合緩和を考慮した運賃水準や体系について、基本方針に基づき検討を行いました。

○運賃体系は現行路線と同様の **均一制**

○基本運賃額は **路線バスの初乗り運賃と同程度**

○**小児運賃やIC運賃**の設定を検討

○路線バスや他自治体事例を参考に、交通弱者への配慮や財政負担等を考慮するとともに、導入に伴う課題等を踏まえ、**割引制度の導入**を検討

■基本方針

①.公共交通が不便な地域における交通弱者への対応

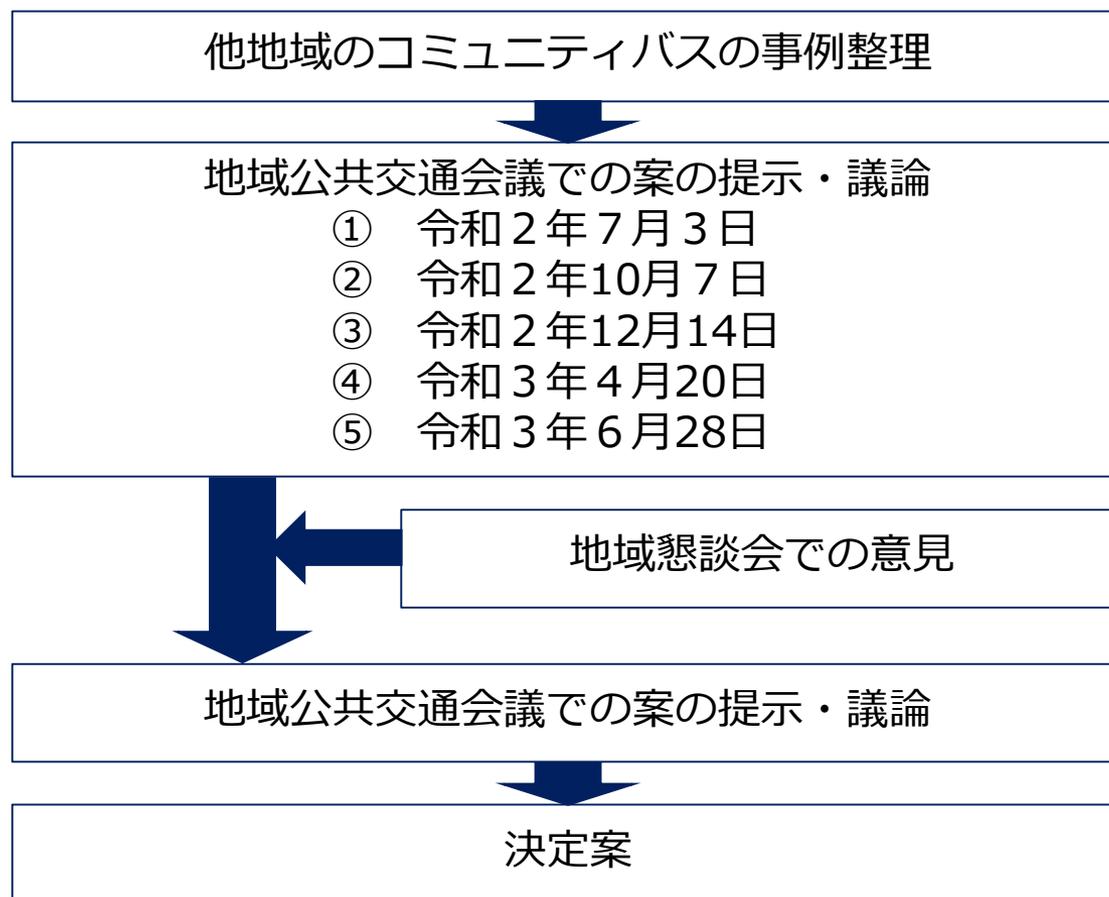
②.路線バスを補完するサービスの提供

③.日常生活に即した運行サービスの提供

④.持続可能な運行形態・サービスの提供

2. 検討フロー

- 事例収集整理の結果を参考としながら、小金井市内を運行する路線バスでの料金設定等をもとに検討案を作成しました。地域公共交通会議にて5回の議論を行い、案を整理しています。
- 現時点での設定案にて地域懇談会での住民の方の意見を伺い、再度、地域公共交通会議にて検討を行い決定します。



3. 現時点での検討案

- ▶ 地域公共交通会議での検討結果を受けて、現時点では、以下のとおり運賃・割引制度を設定しています。今後、割引後の運賃設定額や高齢者割引実施時の確認方法について、地域公共交通会議にて確認を行うことを予定しています。
- ▶ 金額の設定や確認の方法は、先に挙げた方針に加え、運行の安全性・定時性確保のため、運転士の負荷を考慮して検討を行っています。

		運賃・割引制度案
基本運賃		大人：180円 小児：90円もしくは100円
一般割引	回数券	大人：12回分(2,160円)を2,000円で販売（1回167円,割引率7.4%） 小児：24回分(2,160円)を2,000円で販売（1回 83円,割引率7.4%） もしくは 22回分(2,200円)を2,000円で販売（1回91円,割引率9%）
	障害者割引 児童福祉法適用者割引	<u>90円もしくは100円</u> （小児50円） ※対象は事業者制度に準拠
	1日乗車券	500円（大人・小児用共通）
特殊割引	子供割引	未就学児無料 ※人数制限なし
	高齢者割引（65歳以上）	<u>介護保険被保険者証提示により100円</u> ※2号被保険者を含む

※下線部分の小児基本運賃、小児回数券及び障害者割引の金額は、地域公共交通会議にて継続検討中

【参考】他の割引制度を含めたこれまでの検討内容 ※下線部分は地域公共交通会議にて継続検討

		検討の目的と課題		地域公共交通会議 及び 事業者からの意見	基本運賃案・ 割引制度案の案	会議での 承認状況	
運賃	基本運賃	目的	路線バスとの公平性、適切な受益者負担	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスとの公平性から180円を支持すべきである ・小銭発生により運転士の収受時の負担は増加する ・小児運賃の割引額が他の割引制度と違いわかりにくい 	180円（ <u>小児90円or100円</u> ）	大人運賃承認（小児運賃額は継続検討）	
		課題	利用者負担の増加、小銭発生		理由		路線バスとの公正性、コミバス収支率の維持のため、路線バスと同等の運賃とする
	IC運賃	目的	利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・CoCoバス・ミニとのサービス格差を懸念 	IC運賃の導入（178円（ <u>小児89円or100円</u> ））	大人運賃承認（小児運賃額は継続検討）	
		課題	CoCoバス・ミニでは非対応		理由		利用者の利便性向上、路線バスとの公平性のため導入
割引制度	回数券	目的	高頻度利用者への割引	<ul style="list-style-type: none"> ・現行と同等の販売金額（2,000円）が望ましい ・現行回数券との移行時の対応方法の調整が必要 	167円（7.4%割引）（ <u>小児：83円もしくは91円</u> ）	承認（割引額は継続検討）	
		課題	回数券の管理・販売による負担増加		理由		高頻度利用者への割引制度（定期券、学生割引の代替）
	障害者・児童福祉法適用者割引	定期券	目的	高頻度利用者への割引	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	導入見送り	承認
			理由	他市の導入率が低い 高頻度利用者への割引制度は回数券で対応			
	学生割引	回数券	目的	交通弱者への配慮、路線バスとの公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・100円、50円単位での運用が望ましい ・路線バスと同等の扱いが望ましい 	<u>90円or100円</u> （ <u>小児50円</u> ）	承認（割引額は今後検討）
			課題	運転士による確認負担の増加		理由	
バス特	定期券	目的	ICカード利用の促進、路線バスとの公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・京王バスでは、令和3年4月にバス特サービスを終了済み 	導入見送り	承認	
		課題	CoCoバス・ミニでは非対応		理由		京王バスでのサービスが終了しており対応が難しい
学生割引	回数券	理由	高頻度利用者への割引（学生を追加で割引）	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	導入見送り	承認	
		理由	他市の導入率が低い 学生の高頻度利用者への割引制度は回数券で対応				

【参考】他の割引制度を含めたこれまでの検討内容

		検討の目的と課題		地域公共交通会議 及び 事業者からの意見		基本運賃案・ 割引制度案の案		会議での 承認状況	
割引制度	乗継割引	目的	乗継負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> 発券、確認作業に伴う運転士負担増加を懸念 需要が少ないと予想される 	導入見送り		承認		
		課題	発券等による運転士への負担の増加		理由	需要に対する運転士負担の増加、乗継利用者への割引制度は1日乗車券で対応可能			
	1日乗車券	目的	乗継負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスで紙券はすでに廃止 金券管理方法について調整が必要 	1日乗車券500円 (スクラッチ式)		承認		
		課題	紙券の場合は運行事業者と調整が必要		理由	乗継利用時の割引制度としての有効性を考慮			
	子供割引	目的	交通弱者への配慮、子育て世代への支援	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスと同等の扱いが望ましい 	未就学児無料 (人数制限なし)		承認		
		課題	運転士による確認負担の増加		理由	交通弱者への配慮、子育て世代への支援			
	シルバーパス	目的	路線バスと同等の割引	<ul style="list-style-type: none"> 対象者が4割以上となり、財政負担の増大(大幅な減収)について懸念 ※シルバーパスをコミバスで適用する場合、東京都補助がなく小金井市で負担する必要がある 	導入見送り		承認		
		課題	大幅な財政負担の増加		理由	運賃全額の割引は財政負担が過大、高齢者への割引制度は高齢者割引で対応			
	高齢者割引	目的	高齢者の移動支援	<ul style="list-style-type: none"> 毎回年齢確認を行わない形が望ましい 専用パスの発行は個人情報の管理等に懸念 年齢確認による運転士負担増、運行遅延の懸念 財政負担の増大を懸念 対象年齢はシルバーパスと同等の扱いが望ましい 	介護保険被保険者証提示者を対象に100円		未 (割引額、割引手法は継続検討)		
		課題	財政負担の増加、運転士による確認負担の大幅な増加		理由	高齢者の移動支援のためシルバーパスの代替として導入新たな発券による負担の増加、運転士の確認負担を抑える			
その他割引	理由	割引制度が多岐にわたるため、再編後必要に応じ検討	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	導入見送り		承認			
				理由	割引制度が多岐にわたるため、再編後必要に応じ検討				

【参考】現在の各路線の収支状況

- 平成30年度は一部路線で黒字でしたが、令和元年度後半から新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け利用者数が減少し、全路線で収支率が低下しています。
- 令和2年度には全路線合計での収支率が50%以下に落ち込んでいます。

		北東部 循環	貫井前原 循環	東町循環	中町循環	野川・ 七軒家循環	全路線
H30 年度	運行収入	4,898万円	2,049万円	979万円	1,466万円	854万円	10,245万円
	運行経費	4,674万円	3,553万円	2,074万円	2,011万円	1,849万円	14,161万円
	収支率	105%	58%	47%	73%	46%	72%
	補助金額	▲223万円	1,504万円	1,095万円	545万円	995万円	3,916万円
R1 年度	運行収入	4,480万円	1,920万円	898万円	1,408万円	850万円	9,556万円
	運行経費	4,637万円	3,487万円	2,050万円	1,996万円	1,826万円	13,995万円
	収支率	97%	55%	44%	71%	47%	68%
	補助金額	157万円	1,567万円	1,151万円	588万円	976万円	4,439万円
R2 年度	運行収入	2,981万円	1,369万円	560万円	949万円	546万円	6,405万円
	運行経費	4,789万円	3,615万円	2,104万円	2,046万円	1,777万円	14,330万円
	収支率	62%	38%	27%	46%	31%	45%
	補助金額	1,808万円	2,245万円	1,544万円	1,097万円	1,231万円	7,926万円

※ 端数を四捨五入しているため、必ずしも合計は一致しない

※ 運行収入には広告収入を含む

※ 京王バス運行路線(北東部・貫井前原・東町・中町循環)は一括清算のため、平成30年の北東部循環の黒字分は他路線の補助金額と相殺されている